



子どもを望む人の
願いが叶う社会に！
中土井 かおる (みどり)



問／不妊治療を受けているカップルは5組に1組と言われる。心身や経済的負担、社会環境の課題などで治療をあきらめてしまう女性も多い。総合的な不妊相談窓口が必要と考えるがどうか。

答／市の相談窓口で助成金等の相談は対応しており、引き続き窓口の周知に努めたい。

問／男性に対する不妊についての社会啓発が必要と考えるが、講演会なども検討してはどうか。

答／実施を検討したい。

紙おむつ支給の支援策の見直しを



問／在宅介護を行っている世帯の介護費用負担が大きく、中にはおむつ交換の回数を制限している世帯もあると聞く。要介護者本人が非課税の世帯は紙おむつ支給対象にしてはどうか。

答／平成26年度から、支給対象者を非課税世帯のみと変更したが、その時には反対の声はなかったことなどから、見直しの考えはない。紙おむつが必要な方は、市に直接相談してほしい。

健康寿命延伸に向けたベンチャーの取組は？

問／検診や介護保険のデータ解析により実効性のある自立支援の研究が進んでいるが、当市でも産学官の連携による取組の考えはないか。

答／昨今のビッグデータ活用の流れに乗り、ベンチャー企業誘致の取組を進めたい。



歴史文化を生かした
「通年観光」の方策は
小林 和孝 (政新クラブ)



問／歴史文化を生かした「通年観光」の三本柱の一つとして「春日山城を上杉謙信公の聖地とし本格的な観光地に整備する」とした、その方策を聞きたい。

答／平成17年度に、重要な軍道であったという「桑取道」を整備しているが、春日山城周辺の^{ちま}砦群も含め、地元住民でも詳細を知る人は少なく、市民の関心が薄いと感ずる。今ある資源の磨き上げをはじめ、春日山など核となる歴史文化の魅力について、当市を訪れる方々に年間を通して伝えられるよう環境を整えるとともに、市民が地域を知り、その魅力に思いを寄せ、自ら楽しみ感じたことを発信できるような取組を進めていきたい。

「春日山城を本格的な観光地」にするための整備については、上越の食や産品など、来訪者が求めているものを提供できるように春日山周辺エリアを整備していきたい。



問／春日山城を中心として、13区に広がる支城、砦群を発信する考えはないか。

答／春日山城跡自体の整備・活用をこれからどうやって進めていくのか、まずは、春日山周辺の地元の皆さんと話し合っ、しっかり方向性を確認していきたい。



今後の市政運営は
波多野 一夫 (みどり)



問／市の財務状況の把握の上に立った財政計画が重要と考えるが、コロナ禍における市内経済の低迷など、市の歳入が相当落ち込むと予想される現状、今後の市政運営の考えを聞きたい。

答／市の歳入の根幹を成す市税は、法人市民税を中心に前年度と比較して減収となる見込みだが、今年度当初予算においてコロナ禍の影響を加味していることから、税収額は確保できる見通しである。また、普通交付税についても基準財政収入額の減少分が交付税措置されることから、懸念される状況にはないと捉えている。

保倉川放水路整備の認識は

問／保倉川放水路整備に関し、これまで長年にわたる紆余曲折があった。現在は地元との合意の下、国による事前調査が行われているが、事業に対する認識、課題、今後の対応はどうか。

答／流域の抜本的治水対策として、放水路整備は必要不可欠である。特に下流域に立地している企業の安定した操業や地域住民の生命・財産を守るため早期着手が必要である。懸念事項としては、「地域の分断」が沿川住民の大きな不安要素であるため、地域コミュニティの影響を軽減する「まちづくりの検討」が極めて重要である。今後も地域と丁寧な話し合いを行いながら、一刻も早い事業化を国に強く働きかけていく。